

# 学術情報処理センターだより

## オンラインシラバス

かつてコンピュータは、文字通り計算機であり、超高速のソロバンであった。一つの大きな汎用機と呼ばれるコンピュータを、皆で計算に使う集中管理型のシステムであった。しかし、最近10年くらいで、急速に状況は変わり、分散協調型システムと呼ばれるものとなった。コンピュータは、持ち歩けるほど小さくなり、ネットワークで相互に結ばれた。それらは、計算をするだけではなく、文房具の役割や、色々な情報を引き出せる卓上百科事典の役割も含まれるようになった。しかも、その百科事典は、ネットワークを介して世界中に分散している。

佐賀大学の学術情報処理センターにも、情報処理センターからの改組にあたって、そうした「電子化百科」の役割が期待された。そこで、我々は大学が持つ様々な情報を収集し、提供する機能の提供を目指し、「とんぼの眼 (佐賀大学電子図書館)」を構築し始めた。どんな情報を提供すれば良いだろうか。

大学は、様々な専門を持つ教員が集まり研究を行う場であり、また学生たちが自らの能力を磨くために集まる学習の場である。講義では、人類が蓄積して来た知が伝えられ、新しい知の創造のための議論が行われる。その講義の概要を伝えるのがシラバスであり、大学が持つ最大の情報である。これを提供するのがオンラインシラバスシステムである。

オンラインシラバスシステムでは、WWW を通じて、各教員が担当科目のシラバスをデータベースへ入力する。利用者、つまり学生は、WWW を通じて、開講されている学部、担当する教員、キーワードなどを使ってこのデータベースを検索することができる。どんな内容の講義なのか、必要とされる前提知識は何か、講義の進行に併せて読むべき資料な何か、などを知ることができる。

仕組みはできた。これをどう生かそうか。

副センター長 只木進一